

## ヒトパピローマウイルス陽性3重癌の一例

親川仁貴 喜友名朝則 真栄田裕行 鈴木幹男

琉球大学医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科

中咽頭癌ではヒトパピローマウイルス（以後 HPV）陽性例が約 50% を占め、手術、放射線治療のいずれでも予後が良いと報告されている。今回我々は、HPV 陽性であった 3 重癌（中咽頭癌、喉頭癌、食道癌）の一例を経験したので報告する。

症例は 59 歳、男性。咽頭部違和感、嚥下痛を主訴に近医受診。右中咽頭に腫瘍性病変を認めた。生検にて中咽頭癌（扁平上皮癌）と診断され、精査加療目的に当科受診した。当科初診時、右扁桃上極から下極に腫瘍性病変および右頸部リンパ節腫脹を認め中咽頭癌（右側壁 T3N2bM0）と診断した。また右声帯にも腫瘍を認め、生検にて喉頭癌（右声門 T1N0M0）と診断した。また同時期に施行された上部内視鏡検査とその生検から食道癌を認めた。手術治療を勧めたが、手術を希望せず化学療法（TPF 療法）を 2 クール行った。腫瘍の縮小は軽度であったが、希望により化学放射線併用療法（CF 療法+放射線）を施行した。34Gy 照射したところで治療効果が乏しかったため、咽頭食道摘出術、胃管再建術を施行した。術後化学療法（CF 療法）3 クールと追加放射線治療（術前後計 70Gy）を行った。その後術後合併症を認めず、経口摂取可能となり退院となった。以降、アジュバント治療として化学療法（TPF 療法）を 2 回施行した。術後 2 年 3 カ月経過し、再発転移を認めない。

本症例では中咽頭癌、喉頭癌生検材料を用いた PCR 法により両者から HPV-16 が検出された。重複癌と HPV 感染についてはこれまで報告例は少ないが、我々の施設のデータでは重複癌と HPV 感染の間に有意の相関を認めなかった。しかし、HPV 陽性の多重癌は、臨床病期と比較して予後が良好である可能性があると考えた。